第６回 南部地区街づくり協議会 議事録（要旨）

１．開会あいさつ（並河市長）

本協議会も第６回を重ねたが、現時点までに非常に大きな成果が出ている。まずは県市連携協定の締結。先日の知事との地域懇話会では、知事から県市連携の最も具体的な構想として「九条バイパス構想」を挙げていただいた。本市のように、街自らが街づくりの絵を描いていっていることがインフラ整備といった流れに繋がっていると考えている。

また、天理駅周辺地区で県と実施しているマルシェには南部地区から出店いただいているが、雑誌掲載等ＰＲ発信についても良い流れが出てきている。

本日は、柳本で県連携のまちづくりマップやファーム構想についてもご紹介いただけるとのこと。国からの補正として地方創生に関する予算の案内もある中で、色々と弾込めしている非常に大切な時期だが、これからの動きを皆様にご確認していただき、一歩一歩進んでいける形にしたい。

２．事務局連絡（前回協議会議事録の確認、委員報告事項）

３．地域の取り組み報告

（１）柳本まちづくりマップの進捗報告

・これまで地元の会議を９回開催させていただき、ほぼ完成に近付いているところ。

・この取り組みの目的は、住民による地域の資源・魅力の再発見すること、官民協同で作成を行っていることが重要。

・今回の特徴は南部地域の古代大和の数多くの地域資源を活かすため、初めて年表をマップと組み合わせた。マップと歴史を連動させることで、地域外からの訪問者だけでなく、地域の将来の担い手となる地元小中学生の教材になればと考えている。直近の活用としては、3 月 22 日に予定している地元のウォークイベントに街づくりの始まりのマップとして皆さんお配りしたい。

（２）上長岡ファーム／柳本マルシェ構想

・個人での管理が困難になってきている農地について、農家と非農家で基本体制となるファームを設立し、共同でオーナー制による農地の管理を検討中。

・事業計画としては、オーナー制による柿園の運営、耕作放棄地及び遊休農地を活用したピーナッツ等の栽培を検討。

・将来的には定期的な朝市（柳本マルシェ）の構想されており、オーナー制参加者の自家消費以外の農産物や地元農家の販売拠点として、また、地域住民の交流を図る拠点として検討を進める。

４．議　事

（１）ブランディングについて

〇ブランド化に関する今後の展開案について、事務局より説明。

・各商品力を高めることも必要だが、まずは統一的なブランドの確立という流れが必要ではというご意見を踏まえ、今後の体制・展開について整理。

・資料一番上の大きな矢印がブランド確立の流れであり、その下にいくつかのカテゴリーに分かれたブランド化の取り組みの流れを示している。

・先日調査した南部産品の結果を見てもやはり天理は農産物等の食材、食に関する魅力が強いということで、食ブランドプロジェクトを検討する。

・食以外の工芸等については、専門家の方々による勉強会を定期的に実施し、参加事業者が魅力を再認識し、自ら新しい事業を始めるきっかけを作りたい。また、講座を受け持つ専門家と組んで商品開発等を行うことも想定される。

・資料下段に示した実施体制については、各協議会の代表委員、商工会、生産者等を主体とする天理ブランドコンソーシアム（仮）を組織し、各分野の専門家の知見を得ながらブランド確立に向けての様々な審議・意思決定を行う。

【以下、委員の発言要旨】

・パンフレットを積んでおくだけの観光プロモーションから、しっかり産業の振興につながるＰＲを実施したい。

・掘り進んでいけば天理市内には素晴らしい物が多くあるが、それぞれの個々の努力に留まっていて、なかなか天理市の街のブランドに確立されていない。

・地域の産業を掘り起こす取り組みをされている方のお話を、市内の事業者の方と一緒に聞かせていただき、多少の投資をしてでも新しく事業を開始されたいという事業者の方がおられれば、そのコンサル費用について助成を検討したい。

・天理の場合は、この商品ジャンルだけをやれば街全体が潤うのではなく多様な産業があるので、もう少し掘り下げて天理ブランドとして確立するためには、やはり専門家の方々の知見をお借りすることも必要では。

・27 年度においては、個々につかめるチャンスは着実に実施し、それぞれを繋げるために地域のブランドづくりについて検討を進めたい。

・例えば繊維関係、工業関係などそれぞれの分野で協力して何か新しいことをできないか検討したい。ノウハウや技術を活かしあえればなお良いのでは。

・ブランド化について、純粋なメイドイン天理の物だけか、天理の物が使われている、また、コラボレーションした物も含むのかなどブランドの範囲の検討が必要。

・天理の要素があり、天理が感じられ、天理と結び付けば良しとする感覚でよいのでは。皆様の中でも山の辺の道や青垣の自然、歴史の奥深さを大切にしたいという思いはほぼ共通だと思うが、それを形にする際にもう一歩共有できる何かがあればより一体的なＰＲも可能になる。それがブランドの魅力。天理 100％に縛りすぎず、天理の街に経済的な潤いや活気を与えられるかどうかを重視したい。

（２）奈良県立大学連携事業について

〇県立大学との連携事業について、事務局より説明。

・地域振興について学ぶ学生の方々と、南部地区の魅力を掛け合わせて、これまで市で提案している方法とは違った地域の楽しみ方を考えていただきたい。学生の若者目線・斬新な発想で地区の知らない魅力を発見して欲しい。

・大学で地域振興を学ぶ中で、地域でやってみたいこと実践する良い機会として南部で取り組んでいただきたい。

・最終的には行政よりも地元の方に対して提案をしていただき、それを基に何か連携ができれば尚良い。

【以下、委員の発言要旨】

・事例として、奈良市・地元信金と共催で“やまと色プロジェクト”という奈良町の魅力発信を進めている。学生が街を調査し、赤・青・黄の色で街の魅力を表現した若者向けのガイドブックを作製するもの。天理においても、その魅力を表現する手法を研究したり、通常のガイドブックではないＰＲを検討しても面白い。まずは学生が天理のことを良く知ることから始めて、その中で彼らなりの切り口で考えてみれば良い。

・校区にも是非ご協力いただき、半日程度来ていただくようなフィールドワークを重ねても良いし、空き家と農地を活用させていただければ、夏の合宿やゼミ等のセミナーを実施していただくのも面白い。少しでも滞在してもらう機会が作れれば、地域の良さを彼らの目線で見てもらうことができる。

・特別なもてなしより、地域の普段の生活・食事を体験してもらう方が喜ばれることも多く、例えば食事の準備を手伝ってもらうことが良い体験になる。それが民泊の醍醐味。最終的には定住してもらうことが重要だが、まずは学生に体験してもらい、その経験を発信してもらう仕組みをつくることで、人を呼んでくるきっかけを広げられるのでは。

・本学では 27 年度より地元に入って活動すること単位化することになっており、まずは天理市とも協定を結び、協定事業として取り組みをさせていただければ。

（３）周遊観光の拠点整備について

〇トレイルセンターの整備方針について

【以下、委員の発言要旨】

・山の辺の道の中間地点で整った施設は本市のトレイルセンターしかない。どのような機能を持たせれば地域の皆様、ハイカーの方に使っていただけるかを再度検討したい。地域の若者が休日に友達と過ごせるような空間づくり、特に内装整備は、創生の予算も活用し、外部の力も借りて企画を考えたい。

・施設自体の認識が弱い。駐車場はスペース的には十分。施設内にはほとんど使われていない展示もあり、スペースを有効に使えていない印象。少しインテリアを変えたり、デザイナーに装いを提案してもらえれば、若い方でも行ってみたいと

いう空間に生まれ変わるの。色々な物産を並べて、コーヒーやちょっとした軽食の提供、駅前のサイクルカフェとの連携や龍王山の入り口としてアウトドアグッズを置けば、より多くの層の方に使っていただける施設になる。

・長柄駅等拠点からのウォークの到達点として、また、サイクリングの周遊観光拠点として機能させられるよう進めていきたい。長柄駅のスペースについても並行して取り組みを進めていきたい。利用のタイミング等、地元の方々と調整する。

・當麻町の道の駅はちょうど二上山の登山口になっているが、芝生の子どもが遊ぶスペースや軽食、物販など多面的な機能を持っている。トレイルセンターも龍王山の登山口として親しまれるような整備をすれば良いのでは。

・トレイルセンターについて、実際に来られている方の不満足度調査アンケートを実施すれば何が足りていないのか、何を求めて休憩されているかがわかるのでは。

・利用者がここで何が欲しかったかを知ることは確かに必要だし、そもそも気が付かなかった方に対して、もっと入りやすい雰囲気を作ることは大変重要

〇施設を活かした道の駅について事務局より説明

・人と車の流れを整理し、エリアを基本的な道の駅機能と目的（特色）にゾーン分けを実施した。一つ目は駐車場・物販・トイレ等の基本的に必要な機能を持つ拠点ゾーン。二つ目は黒塚古墳などの来訪の目的となる特色ゾーンとして整理。拠点ゾーンのみの利用の方から特色ゾーンを目的に来られる方まで、必要に応じた利用形態を提供することができる。

・それぞれのゾーンにおいて拠点となる施設を整備し、道の駅に必要な機能を付加することでより具体的なサービスの提供が可能になる。

・各拠点を軸に各ゾーンを強化していくことで、最終的にはエリア全体の魅力が向上し、道の駅としての機能を果たすことができる。先ほどご紹介した柳本マルシェの取り組みも全体として大きな魅力になる。

・拠点についてはこの物件に限るわけではないが、現状のマーケットではまだ進出できないという反応が多くの事業者からある。公設の道の駅形態は予算的に厳しい中で、できるだけ民間のお力をお借りしたいが現状まだ至れていない。周辺から賑わいを作り見る目を変え、来ていただける事業者を今後も積極的に探す。黒塚古墳周辺についてはもう少し工夫の余地があると思うので、まずは何か手を加えて雰囲気を変えていければと考えている。

４．次回の日程と主な協議内容

次回第７回協議会は５月上旬に予定し、後日、日程調整を行う。

５　閉　会　－16：30－